



豊かで明るい福島に向けて — 県民の生活に安心を —

福島県知事 佐藤 雄平

私は、知事就任以来、県民生活の安定のためには経済基盤の確立が不可欠であると考え、企業誘致や観光誘客、定住・二地域居住などを積極的に展開してまいりました。しかし、昨年秋季以降の世界的な不況により、企業の生産活動や設備投資が減少するとともに、製造業を中心に雇用環境が悪化するなど、極めて厳しい状況にあります。

このため、今年度は、こうした経済・雇用情勢に迅速かつ的確に対応していくことを最優先課題とし、県政の基本方針である三つの柱を基本としながら、県民が安心して生活していくための施策などを重点的に推進していくことといたしました。

一 活力ある県づくり

第一の柱は、「地域の特徴を生かした活力ある福島県づくり」です。経済・雇用対策のほか、県内産業や観光の振興、県産品の販路拡大、定住・二地域居住の推進、過疎・中山間地域及び地域文化・スポーツの振興等による魅力あふれる地域づくりに取り組んでいきます。

特に、経済・雇用対策として、「経営安定特別資金」等を活用した経営支援を行い、民間企業や市町村等と連携しながら就業支援を行います。また、農林水産業や介護分野における人材確保に向けた検討を進め、実業高校等の実践的な学習の充実を図り、将来の地域産業の担い手を育成していきます。産業振興については、中小企業の技術力強化と経営革新などを支援するほか、農商工連携を推進し、企業の農業参入や飼料

用米等への生産体系移行の支援、米粉の普及・消費拡大に取り組みます。また、民間と一体となった観光プロモーションを展開し、大河ドラマ「天地人」のゆかりの地としてPRと誘客に取り組みとともに、福島空港の利用促進に努めます。定住・二地域居住については、ふるさと回帰支援センターの調査で、当県は移住希望地の一位となりましたが、PRや相談体制の充実などの取組みを更に進めていきます。

このほか、本年度を「文化振興による地域づくり元年」と位置付け、年間を通じて文化活動の発表・鑑賞の場を提供し、来年三月には、声楽アンサンブルコンテストでその成果を全国に発信していきます。

二 安全・安心の県づくり

第二の柱は、「安全・安心が支える住み心地の良い福島県づくり」です。地域医療の確保や悪質商法対策、多重債務者への対応、食の安全確保、障がい者の自立した生活への支援など、安全・安心の仕組みづくりを進めていきます。

特に、地域医療の確保については、県立医科大学の定員を増やすほか、民間医療機関を加えた医師派遣体制の構築や、医師不足が顕著な救急・産科等の処遇改善の支援など、医師の確保や定着促進に取り組んでいきます。また、安全安心にかかわる防災や防犯など十分野にわたる施策を総合的・計画的に推進するため基本計画を策定し、地域での自主的な取組みを促します。さらに、振り込め詐欺や子どもや女性への声か

けによる被害を防ぐため、地域ぐるみの取組みを支援していきます。

三 思いやりが息づく県づくり

第三の柱は、「人にも自然にも心暖かな、思いやりが息づく福島県づくり」です。子育てしやすい環境づくりや次代を担う人づくり、低炭素社会への転換と自然環境の保全に取り組んでいきます。

特に、子育てしやすい環境づくりについては、市町村が実施する妊婦健康診査への支援を拡充するほか、新たなニーズに対応した施設整備への支援や保育の質の向上のための研修を実施します。また、ひとり親の団体の活動を支援するとともに、発達障がいについて、地域の支援力向上とライフステージに応じた支援体制の構築を図ります。低炭素社会への転換と自然環境の保全については、工業団地での通勤手段をマイカーから公共交通機関等に転換するモデル的な取組みや未利用エネルギーの有効活用の取組みを支援するとともに、猪苗代湖の水質回復を目指して総合的な水環境保全対策に取り組んでいきます。

以上が重点的に推進する施策の概要ですが、今年度は、新たな総合計画を策定する予定であり、福島県の将来を方向づける上で非常に重要な年となります。大きな時代潮流の変化を見据えながら、県民がいきいきと暮らせる豊かで明るい福島県づくりに向け、全力で取組みを進めてまいります。